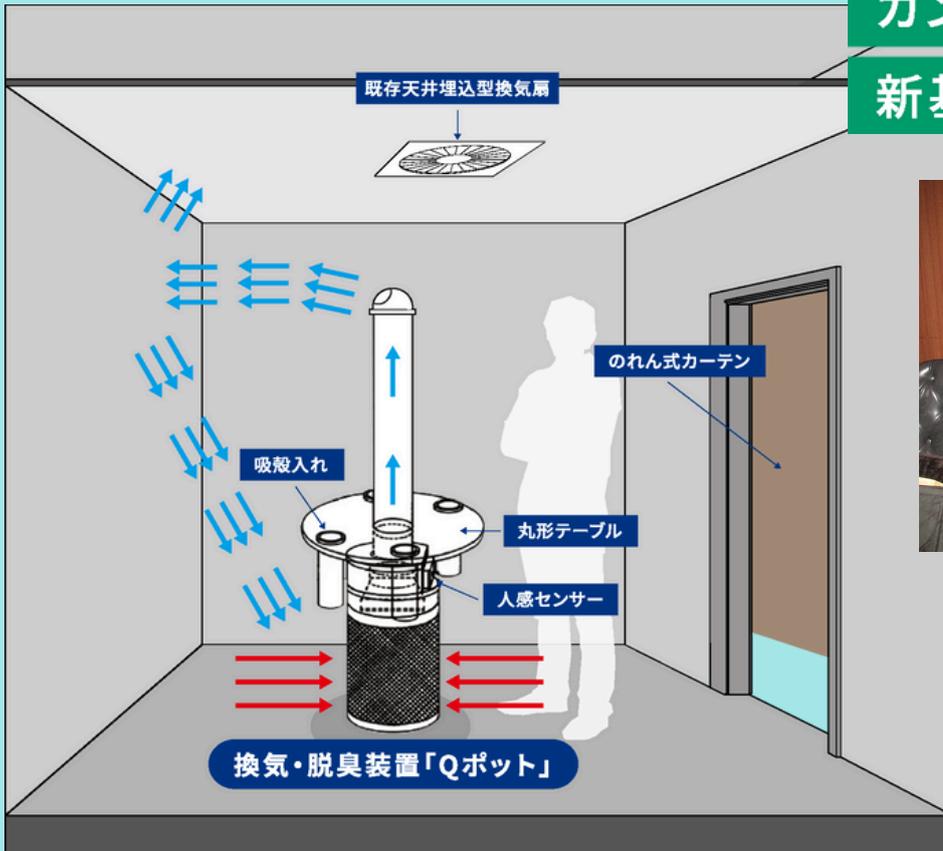


旧来からの喫煙室を 安価に新基準対応の喫煙室に 改善しませんか？

カンタン設置の「Q-pot」で
新基準対応の喫煙室へ！



- 「Qポット」のできる仕事
- ✓ 脱臭装置
 - ✓ サーキュレーター
 - ✓ 換気装置
 - ✓ 局所換気装置
 - ✓ 空気清浄機

従来からの喫煙室の問題点

- 室内が臭い
- 室内の臭いが外にもれる
- 壁面に多量のヤニが付着する
- 電気使用量が多い



新基準対応の喫煙室の特徴

- ① 換気機能付き業務用脱臭装置「Qポット」の設置
 - ワンパス (1 回通気) でたばこの臭気を 85% 以上除去
 - 臭気は下部から吸引し浄化された空気を上部に排出
 - 消費電力 30W/h 程度
- ② のれん式カーテンの取付け
 - 出入り口面の風速 -0.2m/s 以上確保
- ③ リーズナブルなメンテナンス費用
 - 年 1 回の活性炭カートリッジの交換
- ④ 吸殻入れ (自己消火式) 付丸形テーブル (オプション)
 - 水は不使用
 - 清掃が簡単



正しくご理解いただくためのQ&A

Q1

改正健康増進法(2020年4月施行)による新基準によって喫煙室はどう変わったのですか？

これまで曖昧であった喫煙室の技術的基準がシンプルで分かり易いものになりました。喫煙室の技術的基準は次の3点です。

- ①壁や天井等によって区画されたものである事
- ②室内のたばこ煙の混じった空気は屋外排気とする事
- ③その排気量は、室外から室内に流入する気流速度0.2m/秒以上を確保できる量である事

上記によって、これまでの浮遊粉じん濃度基準や一酸化炭素濃度基準は撤廃されました。従って、これまで設置されていた空気清浄機やオゾン装置などは設置不要となります。

左記の基準をクリアするために必要な工事に対する建物所有者の了解や多額の工事費用など、管理権限者の責めに帰ることが出来ない事由で喫煙室が設置できない場合、経過措置として所定の条件(TVOC除去率95%以上、浮遊粉じん量0.015mg/m³以下)を満たす機能を有する喫煙ブース(脱煙機能付き喫煙ブース)であれば部屋の中に置くことが出来るようになりました。

Q2

出入り口面において風速0.2m/s以上をクリアするにはどうすればよいですか？

出入口のドア(W0.8m×H2.0m)をあけ放った時、室外から室内への気流速度0.2m/s以上を確保するには、換気扇による屋外への排気量は1500m³/h以上必要となります。

一般的な執務室の換気回数は6回程度ですので、小部屋の場合、天井換気扇は400m³/h程度の装置が1台という部屋が普通です。そのため、換気扇の増設やダクト工事が必要となります。

Q3

天井換気扇の増設やダクト工事などの工事が難しい場合はどうすればよいですか？

出入口部にのれん式カーテンを取り付け、出入口部の開口面積を狭めることで、室内に向けた気流速度を0.2m/s以上にすることができます。この方法は基準をクリアしていると認められています。

排気基準を満たしている「脱煙機能付き喫煙ブース」ならば、所轄消防署の承認を得た上で、工事無しでの設置ができます。

Q4

「Qポット」を置くと何故室内の臭いが消えるのですか？

室内に設置した「Qポット」の煙突から排気される空気を壁にぶつけることで室内に新たな気流を発生させ、部屋の隅や床面付近に「よどみ」がちな臭気を拡散させ、活性炭に吸着させ易くすることで室内の臭気除去効率を高めることができるからです。



換気・脱臭装置「Qポット」

装置仕様

装置名		換気・脱臭装置「Qポット-N」	換気・脱臭装置「Qポット-S」
寸法	本体	Φ350×H830	Φ300×H830
	カートリッジ	Φ350-Φ200×H500	Φ300-Φ150×H500
材質	本体	鋼板 + 粉体塗装	鋼板 + 粉体塗装
	カートリッジ	ステンレス	ステンレス
風量		5 ~ 8m ³ /min	4 ~ 7m ³ /min
消費電力		< 50W/h	< 50W/h
運転音		50db ~ 60db	50db ~ 60db
運転重量		約35kg	約28kg

製造元

たばこ脱煙脱臭機器製造メーカー

アイダッシュ株式会社

本社

〒110-0015 東京都台東区東上野 6-23-5 第二両宮ビル10階

TEL : 03-5830-7951 FAX : 03-5830-7952

Web : <https://www.i-dash.co.jp/>



販売代理店